



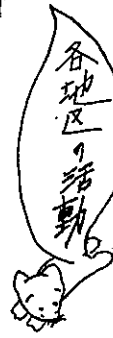
更生保護婦人会だより

発行日 平成6年9月14日
第33号



西山 更生婦会長 北方 龜久世

猛暑が過ぎ去り、朝晩はすっかり秋らしく
ひんやりした。会費も皆様如何に届くでしょうか。
日頃本地区事業におきましては、積極的
に参加を仰いでいることと存じ感謝しております。
継続は力なりといいますが、西山更生婦も
礎を築きまゝ、一代の会長様の比喩がなほ
く思い出されること、新たな責任を感じます。
秋は時々の特色が、この地区にあらわれ
親察社長様の話も伺いまゝ、
政きと温ねて新しきと知り、自己の研鑽に
務めながら皆様が社会浄化活動に勤しめてま
さう。社明月間、協力あかそうございませ



各地区の活動
・柳川市 駿府学園同好
・やまし 道路よりモントーンへ参加
(警察署主催)

大瀬賀町
・静岡地裁裁判・傍聴
・青柳会 更生刑務所 更生心統務部長
・青少年健全育成センターへ参加

大東町
・町内更生婦会員の集い(研修)
講演：清水克己 保護司会長

講演会：牧野務 福祉課長



非行少年に関する思い
掛 保護司 石野 文子

戦後半世紀が過ぎ、家長と称し、自ら業
の家族制度の崩壊、民主主義、男女同権、
経済成長、女性の社会進出、核家族化、高齢化
社会、青少年の非行化等々、数々の言葉と
共に世は移り、五十年近く経ちまゝ、

更生保護活動のみならず、家庭が生き生きと
の様々な場面において社会への関わりが如何に
大切か改めて言うまでもありません。都道府
でなく、隣は音ながらの近所づき合い、勤
ひよめ、隣は何もありません、個人を重視する
余り、周囲に押しつけがましい、又自然無関心で
ある同様、自分も固りから関心を持たれ
はる、孤感にさいなまれて、道徳的
きる人も、現代にいろいろと考えさせられ
まゝの思いの塊です。

今年も国際家族学校があり、真の家族の在
るべき姿とはどういうものか、いま一度考え
たいとも大切ではなないか。

念及、か量かになり、立派な家を建て
別荘、自分の部屋があり、自分の手で
自分の電話でとても快適だと思ってい
ながら、実はそれは非常に危険であり
子にも、それは駄目なことである、
高校生の娘さんが非行化し、相談に
来、友人の迷惑である。

かつては貧しい家庭、又は崩壊した家庭
の子も、非行を犯すことのない時代
から、最近では実父母率七〇%、家庭
経済状況は九〇%、二回り普通以上の
家庭の青少年と聞く。

私が保護司に就任した十年前、

成人の対象者が殆どだったのに比べ、こ
数年は青少年の対象者がばかり、
少年は社会の鏡と云われるように、社会
の影響を強く受けていると云えます。

自分の生き方を変えたとしても親に
子にも、責任は忘れず、はげしい
が、親子の離婚、再婚等、環境の
なり、又、失った子ども達、非行も無
らぬこと、思いつくも、未熟な子
身近で、深く関心してや、
身、子ども達、
向き、同じ高きで、一階に考
いつとは大切を、
には、
まして、心、
せ、
り、
達、
自、
そ、
又、
の、
行、



